

3. 機材の設置方法

3.1 アナログ・デジタルビデオコンバーター (以下 ADVC)

- ・カメラ側の S-ビデオまたはコンポジットの出力を接続してください。
- ・S-ビデオとコンポジット入力は同時使用することはできません。(S-ビデオ入力が優先)
- ・DV の音声には 12 ビットと 16 ビットがあります。取扱説明書を参考にスイッチを 16 ビットに設定してください。

Tips:

12 ビット(12bit/32kHz): 後で音声を追加(アフレコ)可能な記録方式

16 ビット(16bit/48kHz): 通常の記録方式

スイッチ類が無い機種については、設定変更ができない可能性があります。

16 ビット固定であれば問題ありませんが、12 ビット固定の機器では多地点接続時に使用することができません。

3.2. マイクロフォン

特に設定はありませんが、下記を参考にオーディオミキサーと接続して、正常に機能するか確認してください。

3.3 オーディオミキサー

オーディオミキサー(以下 ミキサー)には多くの種類があり、また、ミキサーにはつまみなど操作部分が多いので使いこなすにはある程度の知識が必要です。今回、ミキサーの例として、(株)ヤマハ MG102c を使用しています。さまざまなメーカーがありますが、基本的な操作は同じですので、適宜使用する製品に読み替えて設定をおこなってください。基本的なつまみ類の説明については、資料 3.3-1 を参照ください。

音声ケーブル接続の基本: マイナスワン音声

遠隔会議の場合、エコーの発生をなくすために、会場のマイク入力(送信音声)と受信音声を区別して調整する必要があります。会場のスピーカーからは、会場のマイク音声と DVTS 受信音声を出力し、DVTS 送信音声側には会場のマイク入力のみを出力します。このような出力の仕方を“マイナスワン音声”といいます。

DVTS 用多地点接続サーバー(Quatre)では、各地点へ送信する音声はそれぞれの地点から送られた音声を除いています。これも一種のマイナスワン音声といえます。

下記の接続例は、ステレオチャンネル(左右)を利用して、1 台のオーディオミキサーで、会場用音声、送信用音声を振り分ける構成です。

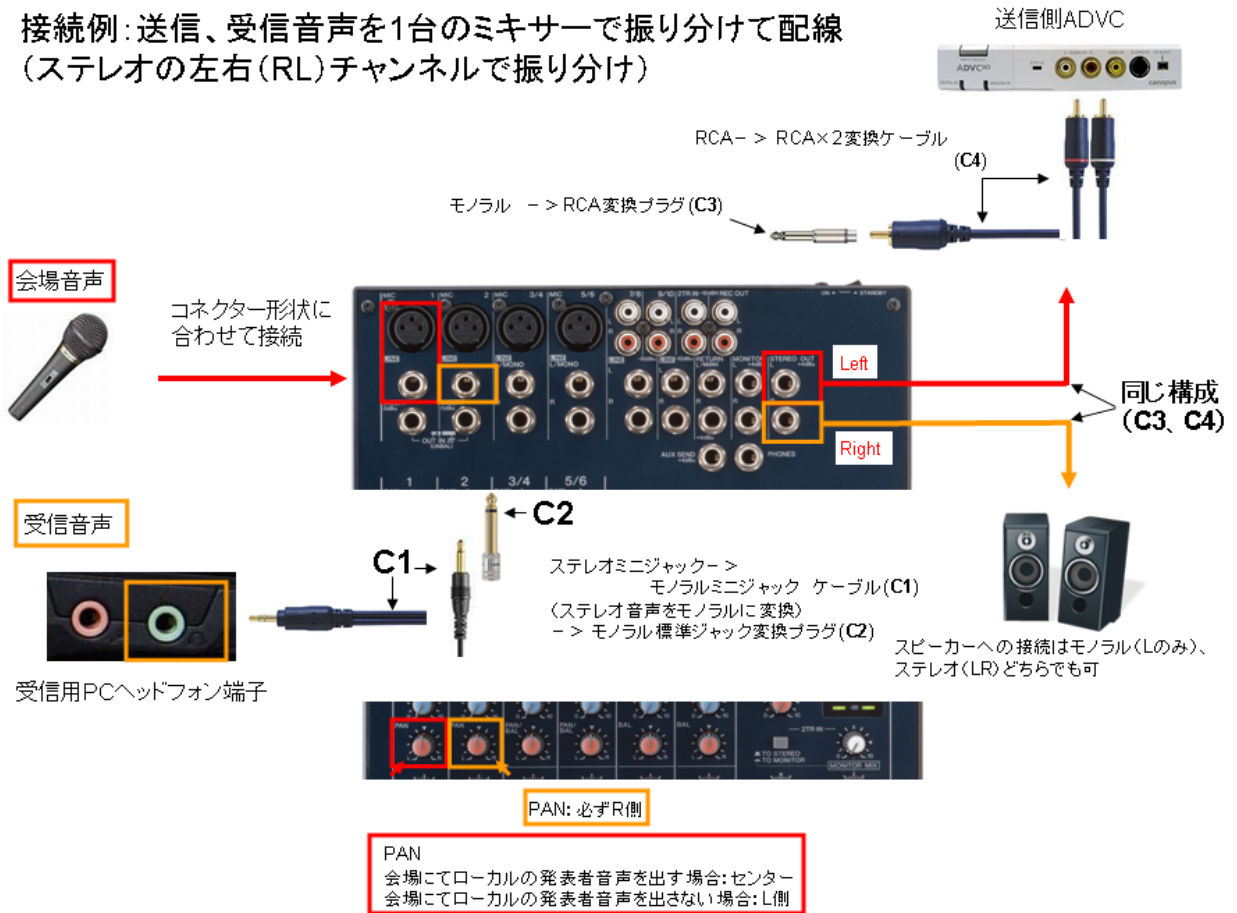
この構成のメリットとして下記のようなことがあります。

- ・手元で送信音声音量、受信音声音量の両方が調節できる。
- ・会場にローカルの発表者の声を出すか出さないか、つまみひとつで変更できる。
- ・送受信の音声レベルのバランスがつかみやすい

特に、送信音声をモニターしないと、意図せず聞き取りにくい音声を接続先に送ることになります。

事前の調整だけでなく、会議中も音声レベルに注意を払ってください。

接続例:送信、受信音声を1台のミキサーで振り分けて配線
(ステレオの左右(RL)チャンネルで振り分け)



- Left (左) : ローカル Local (会場で流す音声)
- Right (右) : リモート Remote (接続先に送る音声)

と覚えると 配線時に混乱せずに済みます。

推奨ケーブル・プラグ(ビクターJVC 同等品でも可)

C1	JVC	CN-207A (φ 3.5 ステレオ → φ 3.5 モノ 1.5m)
C2	JVC	AP-100A (φ 3.5 モノ → φ 6.3 モノ 変換プラグ)
C3	JVC	AP-102A (φ 6.3 モノ → RCA 変換プラグ)
C4	JVC	CN-186G (RCA×1 → RCA×2 3M)

3.4 ビデオカメラ

最近ではHD対応のカメラも増えていますが、DVTSではSDを使用します。
映像をSD出力させるためには、出力に関する設定が必要なことがあります。

取り扱い説明書などを参考に設定をおこなってください。

また、ビデオカメラの機能のうち、特に下記は支障をきたします。

取扱説明書を参考に、設定確認、解除しておいてください。

- ・オートパワーオフ(一定時間後に自動的に電源が切れるモード)

本番中に急に電源が切れてしまいます。

- ・デモモード(さまざまなエフェクトが自動的に現れる)

一定時間後に"デモモード"と表示画面が現れ、白黒になったり、モザイクがかかるなどエフェクトの例が表示されます。

- ・日時などの画面表示

3.5. DVTS用 PC (送信用、受信用 各1台)

セクション4を参考にIEEE1394ケーブルの接続、送受信設定をおこなってください。

3.6 ディスプレイ(液晶テレビ、プラズマテレビ、プロジェクター)

モニターの入力切替を接続方法に合わせて設定してください。

3.7. スピーカー

スピーカーは会場の規模に合わせたものを使用してください。テレビに内蔵されているものでもかまいません。ミキサーを介して、モノラル音声を左右それぞれのチャンネルに分配して接続してください。

3.3で紹介した構成は、これらの問題に十分配慮したものとなっています。

また、事前に受信PCの音声出力の左右バランスを確認してください。

<左右バランス確認方法>

- 1) 左右バランスの確認方法:コントロールパネルにあるサウンドとオーディオデバイスを開きます。
- 2) ボリュームコントロールの下にバランスとボリュームというスライダーがあります。
- 3) バランスは中心に、ボリュームはオーディオアンプやスピーカーなど機器に合わせて調整してください。



両方のスピーカーから音が聞こえますか？

受信 PC から音声を取り出すときに使用するケーブルを接続するときの注意点

ヘッドフォン端子に使用されているステレオミニジャックは小さいため、汎用のケーブルを用いた場合接触不良や短絡(ショート)をおこし、一方のチャンネルの音が出ないなどしばしばトラブルを起こします。必ず事前に音声テストを行い、正しく左右の音が出ているか確認してください。

3.8. VPN ルーター(手術ライブ中継など必要時)

VPN ルーターの設定はリモートでおこないます。

IPアドレスなど基本事項の設定を行い、ネットワークに接続してください。

ネットワーク、機器操作に関する知識が必要ですので、ネットワーク管理者の方に協力を依頼して作業をおこなってください。